

第43号 (11月) 2016年 11月1日	七里ヶ丘こども若者支援研究所 それが社会参加だ!	住所:鎌倉市七里ヶ浜東 2-31-12 連絡先:090-7212-4055 Email:qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp 編集長:新舛秀浩 発行責任:者滝田衛
---------------------------------	------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

おかあさん、できたよ! 伊藤正夫さん(会員)

これ(見出し)は、施設利用者がその日に初めて行った作業や学習を家に帰っておかあさんに報告するときのことばです。初めてのことを成し遂げた充実感が本当に感じられます。



久里浜駅前夕焼け撮影川辺さん

発達障害にはいろいろな障害名があげられますが、同じ診断名であってもそれぞれ異なった特性を持っています。遊び、学習そして運動を通して、どのようにすれば良いところを伸ばすことができるでしょうか?

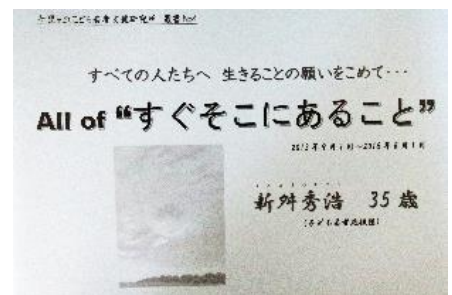
それには、まず当事者の得手不得手を見極める必要があります。

でも、それは簡単ではありません。知能試験や認知試験の結果がわかればいいのですが、昨今は情報開示の関係でなかなか情報を得ることができません。同時に検査だけでなく、本人の気持ちや暮らしからの交流が大切です。ですから、学習や作業を通して「あ〜、こんなこともできるんだ。」「これは、ちょっと無理かな〜」といろいろな気づきを大切にしていきたいと思います。

例えば、色識別が苦手な子が4色の3Dの組み立てパズルをやっている、青色が彼女にとって一番わかりやすい色とわかった事、自閉症者が日常会話から英語が好きとわかり学習に取り入れた事、指先の動きに障害がある知能障害者が作業にあった治具を用いて作業が円滑にできるようになった事がありました。こうした事は彼らの自信となり肯定感に繋がると同時に、私たちにも大きな喜びと励みとなります。「これは無理だろう」とか、「こんな事をする癖になるから止めさせよう」では何も生まれてきません。それよりも、「これはできるのではないだろうか?」「こうしたらどうなのだろう?」とチャレンジしていく柔軟な考えが大切です。

このように彼らの特性を考えながら向き合っていけば、日常でできることも増えて生活の質の向上にも結びついていくと信じています。(注:伊藤さんは障がい者作業所に従事しています)

コラム風 新舛秀浩さんが3年にわたって書き綴ってきた“すぐそこにあること”は、12月には36号となる。8月に発行しました「All of “すぐそこにあること” すべての人たちへ 生きることの願いを込めて…」は100部完売しました。増版を願う声が届き感謝、ありがとうございます。新舛さんが「3月には改訂版で発行します」と発信しましたので、今しばらくお待ちください。



さて、去る9月7日に内閣府ひきこもり調査結果を公表した。2010年以降2回目の調査(2015年12月実施)。概略は15万人減少で54万人、長期化と高年齢化、課題は「親亡き後」の生活困窮。しかし世代変化をみると、35歳以上が倍増、20代前半が13ポイント増35%。

39歳までの調査なので、5年経過して世代が40代に押し上げられた感が否めず、支援効果とは言えない。また生活困窮の指摘には自己責任、家族の問題とする悪意を感じる。すでに子どもの貧困が喫緊のテーマになる現代だ。「お金=仕事=幸せ」を越え、「支援=元気=社会参加」を実現する共生社会への足掛かりを作りたい。社会の寛容と共生。(滝田)

報告 不登校解決市民サミットへ向け 10月16日子ども若者応援団会議



残暑厳しい日、10名のご参加ありがとうございました。

自己紹介から始まり、来年行う予定の不登校解決市民サミットについて話し合いました。やはり中心になって話すのは、当事者が好ましいのではないかということ。根本的な解決をめざすだけでなく、解決を具体的に実現すること。前回の成果として、教育委員会の方々が肩書で語るのではなく、登壇者と参加者が“一人の人、市民そして当事者”として語ったことが大きかったこと。いじめ・不登校の解決として提案した宣言文にあるように、フレキシブルな教育制度へ向け進め、対人関係のトラブルにも柔軟な対応をとり、そこから学ぶ姿勢をと、意見が出されました。

電通社員の自死が示すように、大人社会でもハラスメントという「いじめ」、ともなう「入社拒否（不登校と同じ）」があります。根本的に解決するのはとても難しいですが、いじめ・不登校をとことん議論し、提案してゆきます。不登校市民サミットに向け皆様のお力をお寄せください。

○涌井貴暁さん、ひきこもり支援の取り組みやご自身の体験談を4回連続講演会形式で開催いたします。別紙をご覧ください。

○龍崎明信さん、中学生ロボコン写真集発行も近づきました。発行経費などの申請(300部、納期6営業日、35543円税込み)を参加者で確認し承認いたしました。(新舛)

それぞれの風



○逗子市東部地区民生委員児童委員研修会で「地域がはぐくむ 子どもの育ち 親への応援」をテーマにお話をさせていただきました。不登校・発達障がい・ひきこもり当事者の理解、深層心理と社会背景を、事例満載でお話できました。担当者からいただいた感想では、「具体的なお話しが聞けてとても良かった」「子供や若者の問題に触れる機会が少ないので勉強になった」「専門的な知識が無いので対応は難しいが理解が広がった」

「家庭環境、親子関係、教育現場、人育ちの難しさ、どうしてだろう?」「先生のお人柄が伝わって来ました、いいなあ〜」と。昔から地域で活動される方々30人の穏やかなまなざしを受け、質問や相談の声もいただきました。担当者の方は“ずし子ども0円食堂”8回目実施されています。

○コラム記事の内閣府調査に、改めて9月28日神奈川新聞が社説を書いた。僕は「当事者や現場の声がない」「公表のコピーでしかない」と。残念な社説と酷評し、知人へ短文を送った。「今回の社説批判は非常に耳が痛かったです」「現場を知らずに書くのは、本当に恥ずかしいし、記者の力が評価されてしまうという意味で怖いこと」の声をいただいた。当事者の声を聞かずに、専門家だけに任せる?この風潮が最も怖いと思う。報道が取材と意志を失うことは社会の荒廃。哀悼!おのたけじ(滝田)

【ご参加ください】
応援団会議・作業
は横須賀市サポー
トセンターで行いま
す。誰でも参加でき
ます。途中参加・
中座歓迎です。

11月研究所開設日程 相談時間10時～16時 土日訪問はご相談

5日(土)	ジェントルハート講演会	20日(日)	応援団会議
7日(月)	相談室	21日(月)	相談室
10日(木)	フリーラウンジ	24日(木)	フリーラウンジ
11・12日	かながわ円卓会議、アンカー	25日(金)	葉山町南郷中講演会
14日(月)	他事業	27日(日)	ひきこもり講演会①
17日(木)	フリーラウンジ	28日(月)	発送作業日 2:00～